

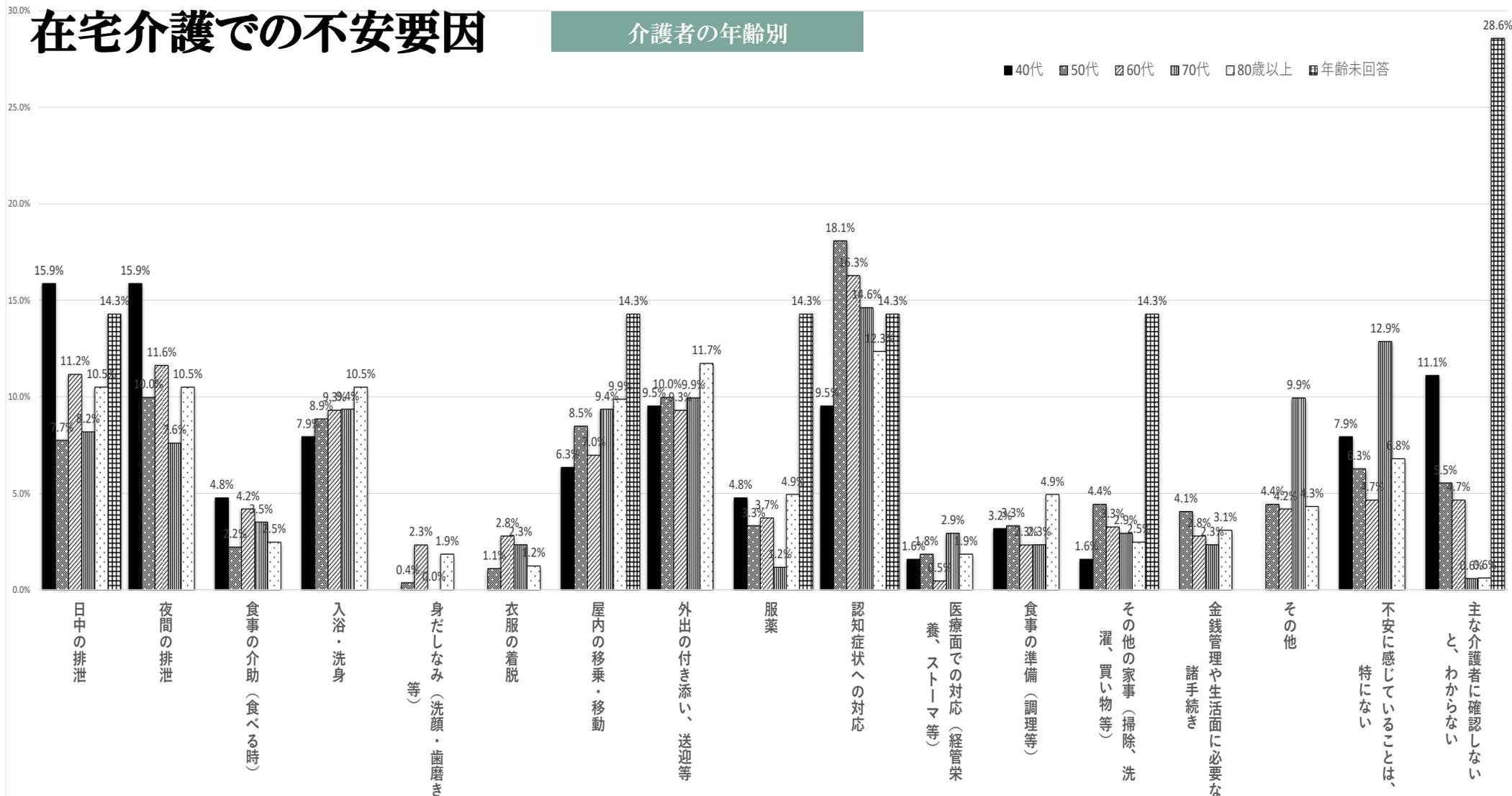
知多北部広域連合
在宅介護実態調査報告書
結果概要 再分析

令和5年8月

在宅介護での不安要因

介護者の年齢別

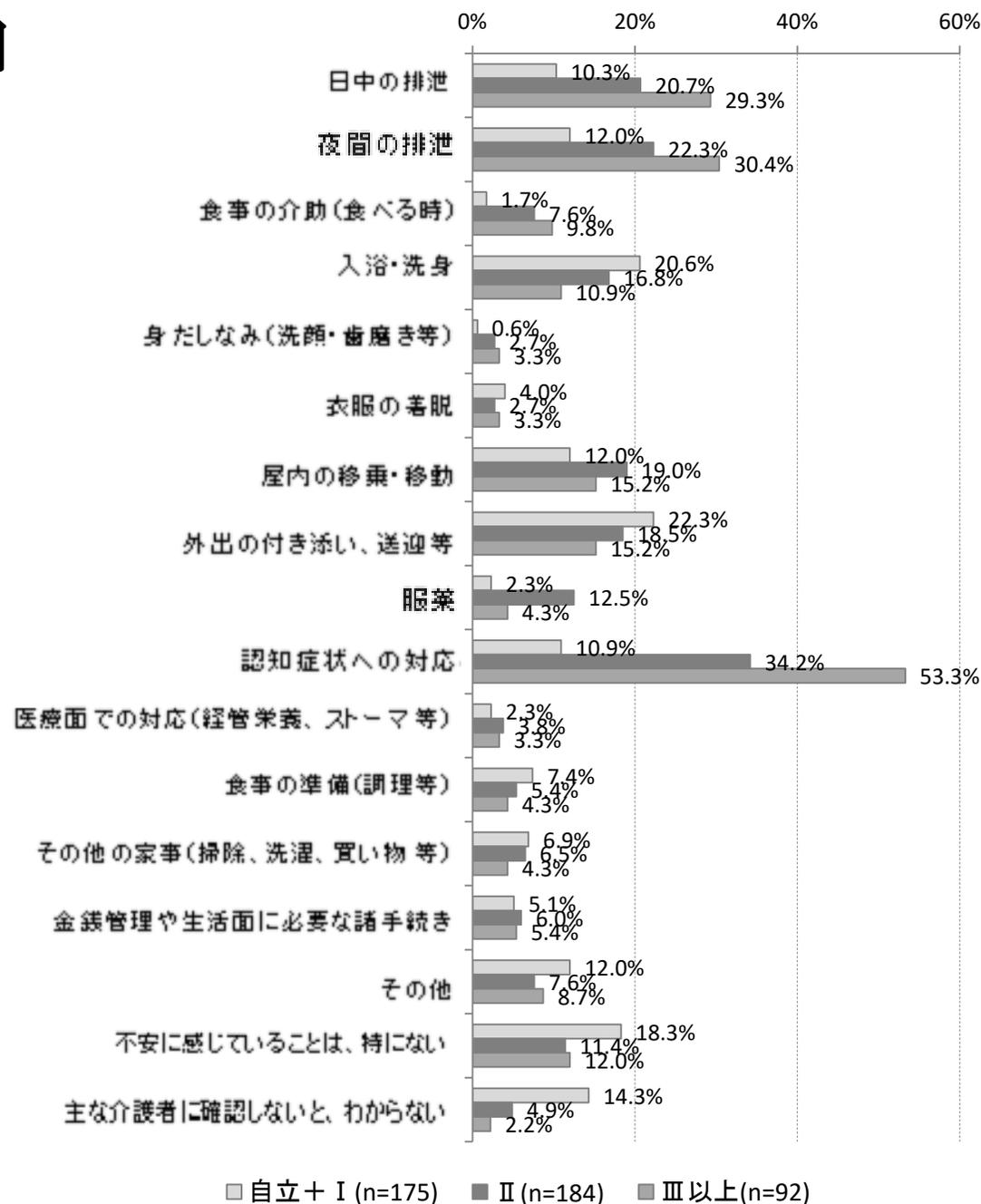
■ 40代 ■ 50代 ■ 60代 ■ 70代 □ 80歳以上 ■ 年齢未回答



- 在宅介護での不安要因を年齢別にみると、40代では「日中の排泄」「夜間の排泄」が15.9%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が9.5%となっています。
- 50代では「認知症状への対応」が18.1%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」が10.0%となっています。
- 60代では「認知症状への対応」が16.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が11.6%となっています。
- 70代では「認知症状への対応」が14.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が9.9%となっています。
- 80代では「認知症状への対応」が12.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が11.7%となっています。

在宅介護での不安要因

認知症自立度別



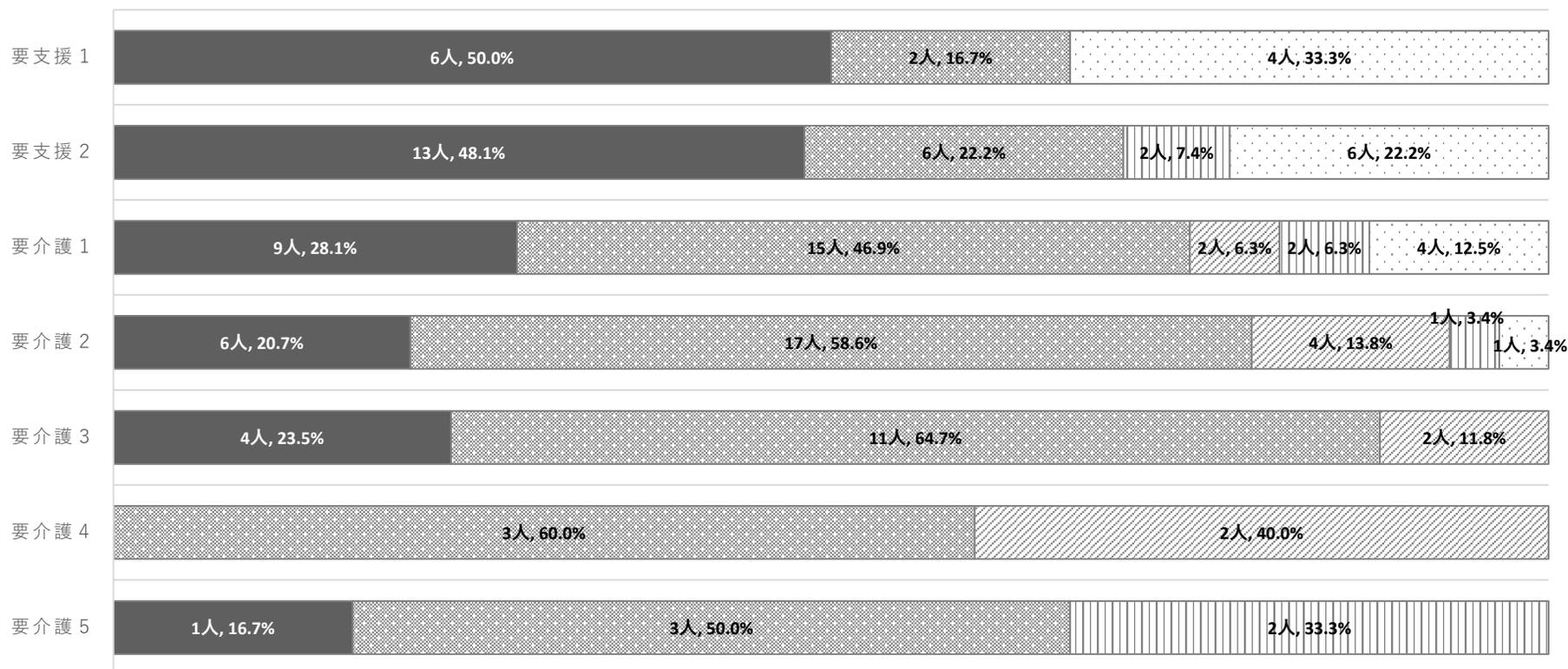
- 介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+ I」では「外出の付き添い、送迎等」が22.3%ともっとも割合が高く、次いで「入浴・洗身」が20.6%、「不安に感じていることは、特にない」が18.3%となっています。
- 「II」では「認知症状への対応」が34.2%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が22.3%、「日中の排泄」が20.7%となっています。
- 「III以上」では「認知症状への対応」が53.3%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が30.4%、「日中の排泄」が29.3%となっています。

就労継続見込み

要介護度別

要介護度別（フルタイム）

- 1 問題なく、続けている ▨ 2 問題はあるが、何とか続けている ▩ 3 続けていくのは、やや難しい
 □ 4 続けていくのは、かなり難しい □ 5 わからない



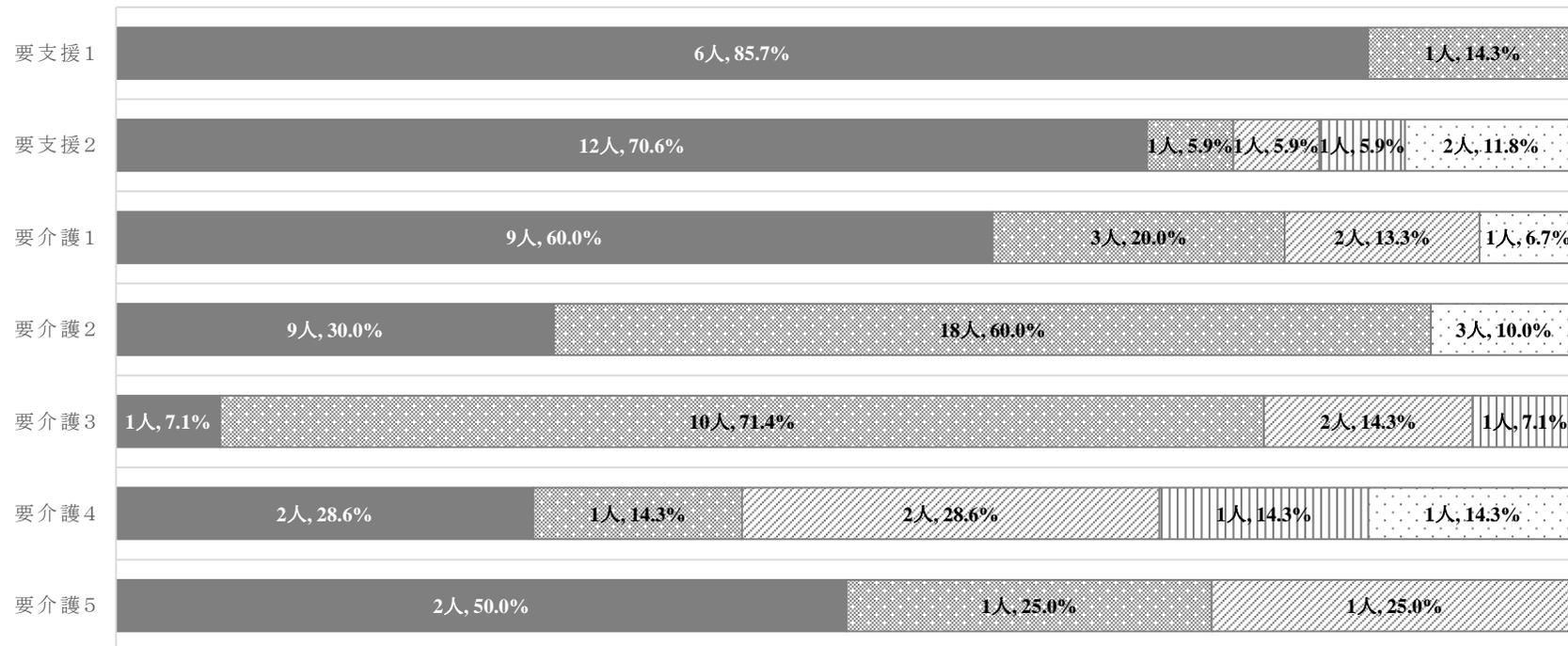
- フルタイム勤務者が今後就労継続が可能かどうか要介護度別で見ると、「要支援1」（50.0%）、「要支援2」（48.1%）では「問題なく、続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「要介護1」（46.9%）、「要介護2」（58.6%）、「要介護3」（64.7%）、「要介護4」（60.0%）では「問題はあるが、何とか続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「要介護4」では「続けていくのは、やや難しい」（40.0%）の割合が、すべての介護度の中でもっとも高くなっています。
- 「要介護5」では「続けていくのは、かなり難しい」（33.3%）の割合が、すべての介護度の中でもっとも高くなっています。

就労継続見込み

要介護度別

要介護度別（パートタイム）

■1 問題なく、続けている ■2 問題はあるが、何とか続けている ■3 続けていくのは、やや難しい ■4 続けていくのは、かなり難しい □5 わからない

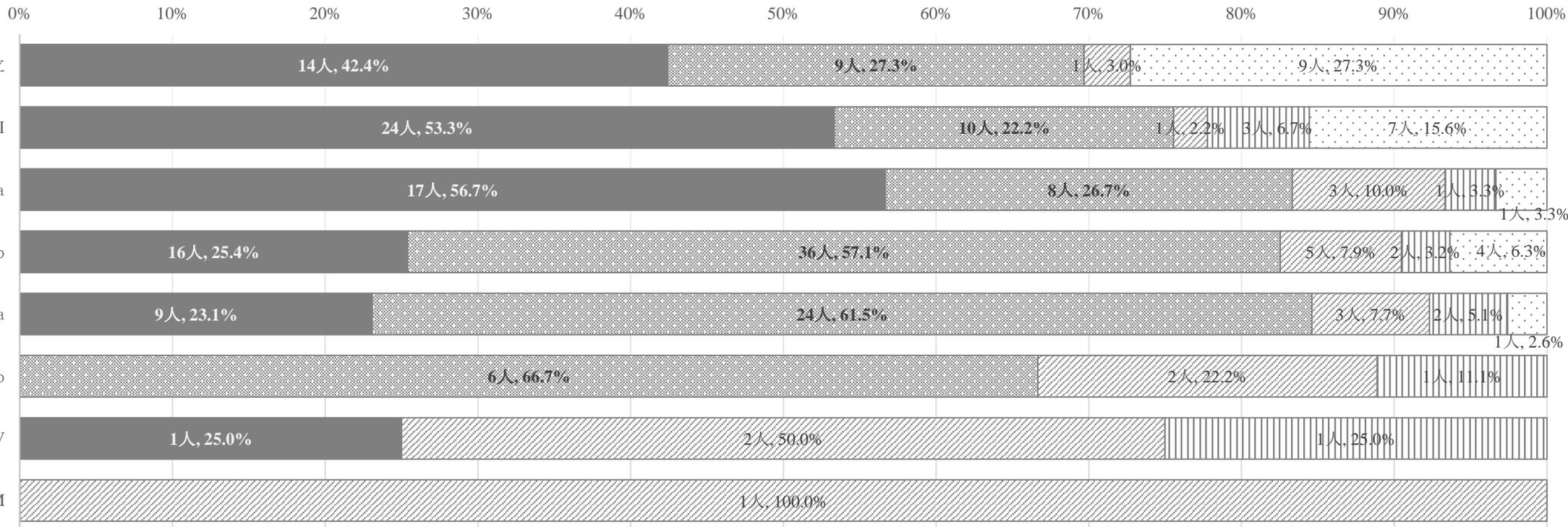


- パートタイム勤務者が今後就労継続が可能かどうか要介護度別でみると、「要支援1」（85.7%）、「要支援2」（70.6%）、「要介護1」（60.0%）、「要介護5」（50.0%）では、「問題なく、続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「要介護2」（60.0%）、「要介護3」（71.4%）では「問題はあるが、何とか続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「要介護4」では、「続けていくのは、やや難しい」（28.6%）の割合が、すべての介護度の中でもっとも高くなっています。

就労継続見込み

認知症自立度ランク別

■ 1 問題なく、続けている ▨ 2 問題はあるが、何とか続けている ▩ 3 続けていくのは、やや難しい ▪ 4 続けていくのは、かなり難しい □ 5 わからない

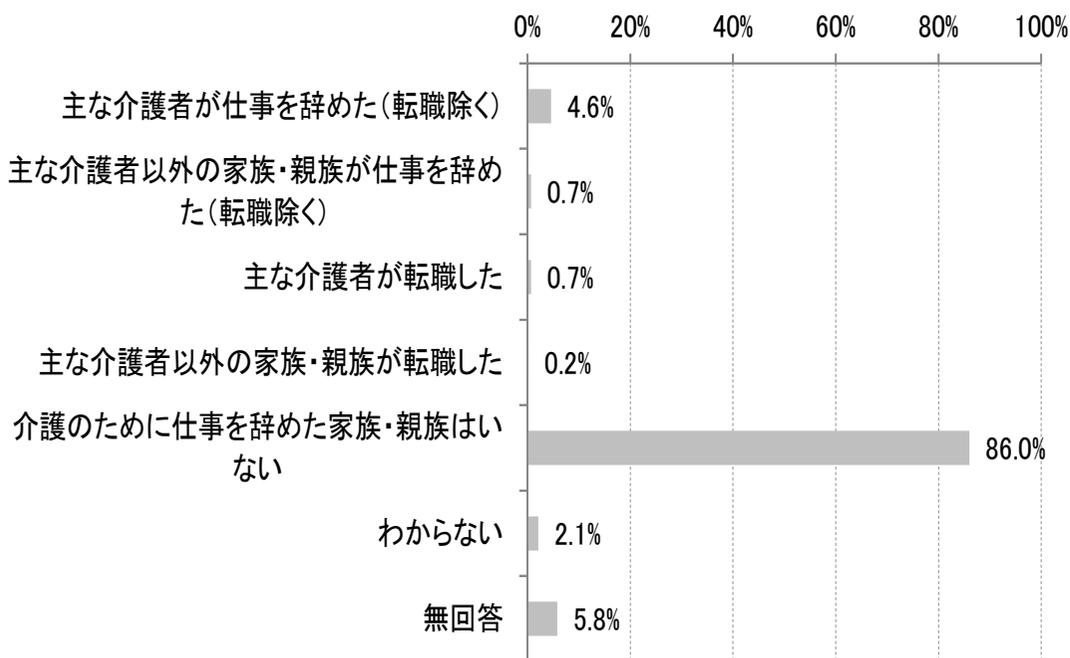


- 今後就労継続が可能かどうか認知症自立度ランク別でみると、「自立（42.4%）」、「I（53.3%）」、「IIa（56.7%）」では「問題なく、続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「IIb（57.1%）」、「IIIa（61.5%）」、「IIIb（66.7%）」では「問題はあるが、何とか続けていける」の割合がもっとも高くなっています。
- 「IV」（50.0%）では「続けていくのは、やや難しい」の割合がもっとも高くなっています。

介護のための離職の有無

介護のための離職の有無

合計(n=570)



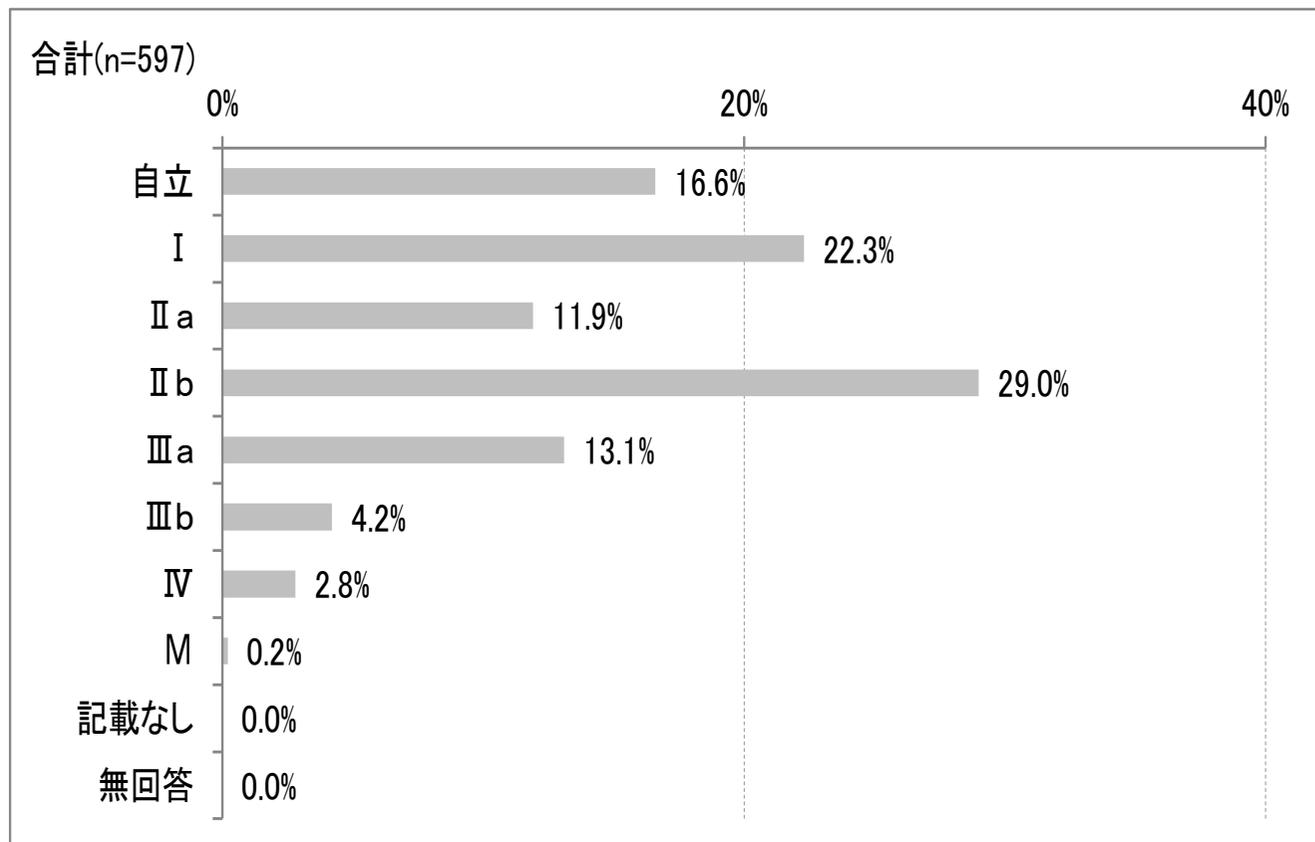
	主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)	主な介護者が転職した	主な介護者以外の家族・親族が転職した	介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	わからない
20代	0	0	0	0	1	0
30代	1	0	0	0	2	0
40代	1	0	0	0	35	0
50代	9	2	3	1	151	5
60代	8	0	1	0	114	4
70代	5	1	0	0	101	1
80歳以上	2	1	0	0	84	2
年齢未回答	0	0	0	0	2	0

- 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない（86.0%）」の割合がもっとも高くなっています。
- 主な介護者が仕事を辞めた年齢で見ると50代（9人）、60代（8人）、70代（5人）のとなっています。

認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度ランク別

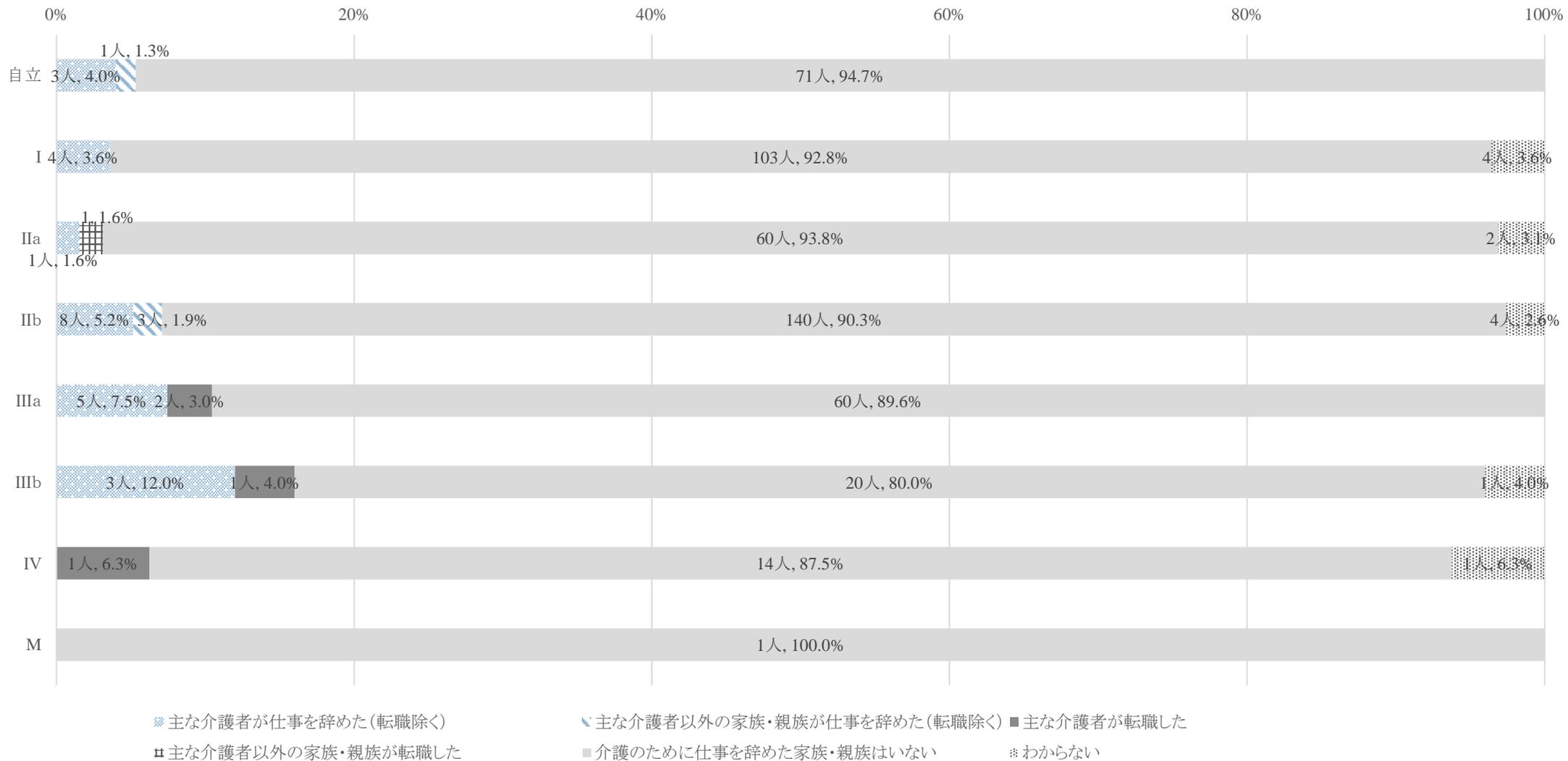
認知症高齢者の日常生活自立度



□ 在宅介護実態調査に回答いただいた方の認知症高齢者の日常生活自立度の割合をみると、「II b (29.0%) 」がもっとも高くなっています。次いで、「I (22.3%) 」、「自立 (16.6%) 」となっています。

介護のための離職の有無

認知症自立度ランク別



□ 主な介護者が仕事を辞めた割合を認知症自立度ランク別にみると、「IIIb（12.0%）」がもっとも高く、次いで「IIIa（7.5%）」となっている。

サービス未利用の理由

認知症の有無（程度）別

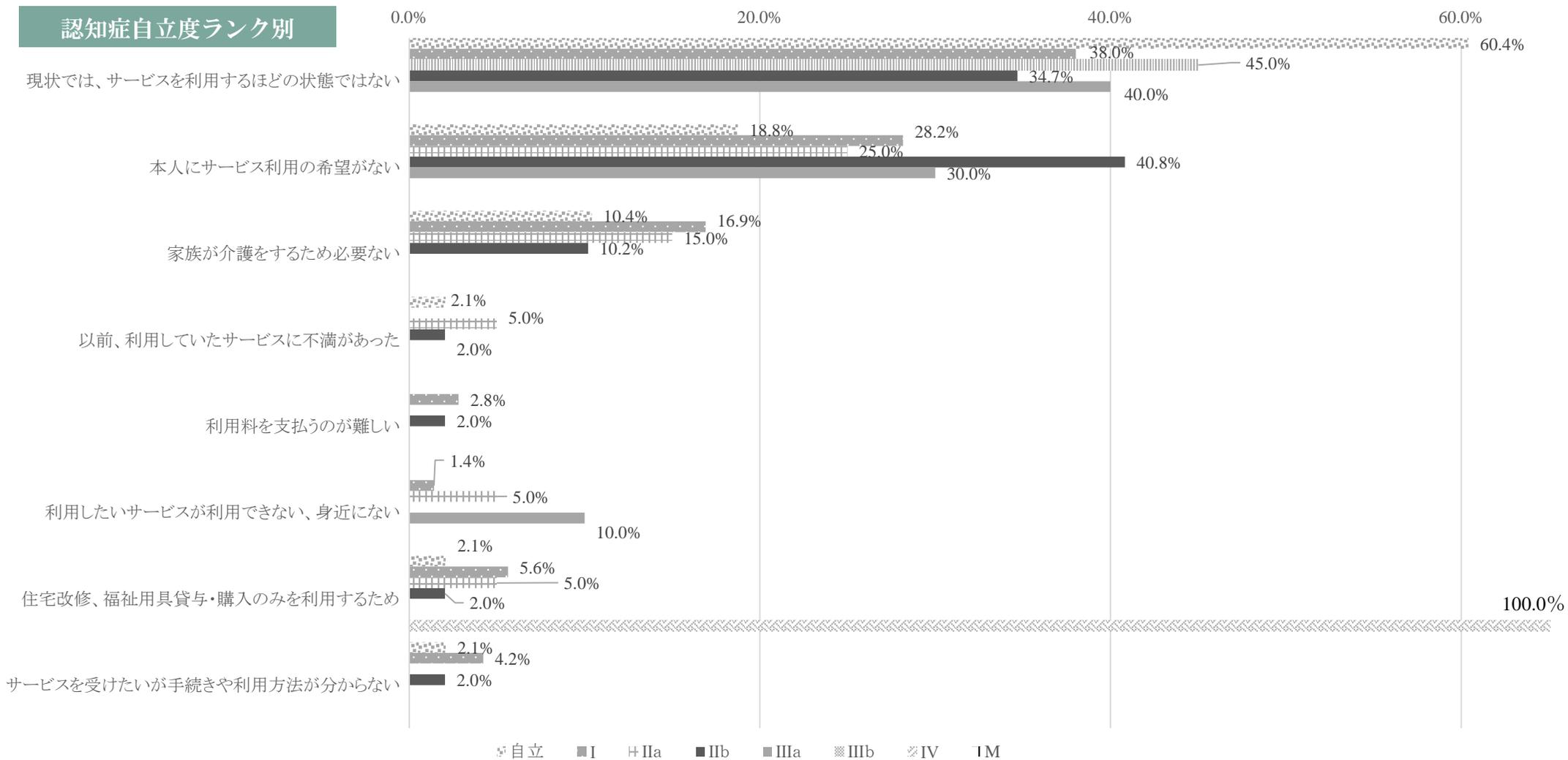
	現状では、サービスを利用するほどの状態ではない	本人にサービス利用の希望がない	家族が介護をするため必要ない	以前、利用していたサービスに不満があった	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが利用できない、身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	その他
回答者計 (要支援1・2)	54	28	14	1	1	1	5	4	3
要支援1 (内、認知症の方)									
要支援2 (内、認知症の方)	1	1	1				1		
回答者計 (要介護1・2)	27	25	9	2	2	2	2	1	2
要介護1 (内、認知症の方)	7	8	1	1					
要介護2 (内、認知症の方)	4	2	1		1			1	1
回答者計 (要介護3以上)	4	4	2	0	0	0	1	0	4
要介護3 (内、認知症の方)	1	2							1
要介護4 (内、認知症の方)									2
要介護5 (内、認知症の方)							1		

□ サービス未利用者のうち認知症のある方の要介護度は、要支援2（4人）、要介護1（17人）、要介護2（10人）、要介護3（4人）、要介護4（2人）、要介護5（1人）となっています。

□ サービス未利用の理由については「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」「本人にサービス利用の希望がない」が多くなっています。

※その他についての理由は今回の調査では聞き取りをしていません。

サービス未利用の理由



□ 認知症自立度ランク別にみたサービス未利用の理由としては、「自立」「I」「IIa」「IIb」「IIIa」で「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」「本人にサービス利用の希望がない」が高くなっています。

※その他についてはグラフからのぞいているため、100%になっていません。

認知症高齢者の日常生活自立度

(参考)

認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

5